

ある句会

野瀬 隆平

仲間と句会を開くことになった。芭蕉の「五月雨をあつめて早し最早川」が頭に浮かんだので、兼題は「五月雨」とした。

Aさんの詠んだ句には、こんなのもあった。

五月雨や川面にほどけゆく灯り

夕暮れどきに、雨で揺れる水面に映る灯りがにじむ様子を詠ったそうである。

Bさんの句は、

五月雨の音に紛るる 匙の音

静かな部屋で雨音を聞きながら、ティーカップをかき混ぜるスプーンの音だけが響く。そんな「雨の日の孤独」や「落ち着き」を切り取ったという。

Cさんの句は、

五月雨や 橋の裏まで 水の音

水音が世界を満たしていく感覚を軸にした句とのこと。

実は、この三句、すべて生成AIが作ったものである。

どのようにして、作らせたのか。AのChatGPTの場合を例にとって説明する。

まず、こちらから「五月雨」を季語とする俳句を作りたいのですが、あなたならどんな句を読みますか、というプロンプトを入れる。すると、次のような返事が返ってきた。

いい季語を選ばれましたね。「五月雨」はしっとりとした風情だけでなく、激しさや時間の連なりも表現できる奥行きのある言葉です。私なら、例えばこんな句を考えます。

五月雨や庭石つたふ音の層

雨が降り続く中で、石を伝う水音が重なり合う静かな時間を意識しました。

もう少し動きや情景を出すなら、

五月雨や川面にほどけゆく灯り

夕暮れ、雨で揺れる水面に映る灯りがにじむ様子です。

あるいは、やや古風な調子で、

五月雨を集めて暗し山の道

人の気配が薄れるような、山中の重たい雨の感じを出しています。

「五月雨」は ・静けさ（しとしと） ・連続性（降り続く時間） ・増水や勢い、といった方向に広げられます。もし、詠みたい場面（庭・街・思い出など）があれば、それに合わせて一緒に推敲もできますよ。

なかなか丁寧な返事ではないか、これら三人の句をどう評価して選句すべきか。

ところで、自分自身はどんな句を詠んだのかと訊かれそうだが、残念ながら、一句も詠めずに諦めてしまった。

参考： BはGoogleのGemini、 CはMicrosoftのCopilot